

二時間目「社会」 ノミヤ



みんなの未来のために

今できることってなんだろう？



みんなで
考えよう！

～豊かな未来を守るために～

中学生のみんなには、ぜひ覚えてもらいたい「SDGs (エスディー・ジーズ)」。

SDGs は、17 の目標・169 のターゲットから成り立っていて、「世界中の誰一人取り残さない」ことを誓った持続可能な開発目標のことです。

では、持続可能な開発目標ってなんでしょ。実はとても身近なものもあり、その目標を達成するために、みんなはどんな取り組みができるでしょうか？

わかりやすいものだと「食べ残し」、いわゆる食品ロスをなくすこと。

食品ロスとは、「食べ残しや賞味期限などが近いなどの理由で、食べられるのに捨てられてしまう食べもの」のことで、日本では、年間約 600 万 t (※2018 年度の国の推計)、一人一日当たりお茶碗1 杯分 (約 130g) が捨てられているという現状があります。

もっと身近な話をすると、二宮町の中学校では学校給食があります。2020 年度の給食で中学校から排出された食べ残しの割合は、配食した量の約 15% 分。これを一人一食当たりの量に換算すると、約 72g 出していることとなります。昼食だけで、日本における一日平均値の半分以上を出していることとなりますが、みんなはどう思いますか？

この食品ロスの問題については、SDGs の目標 12 「つくる責任 つかう責任」に位置付けられていて、2030 年までに「小売 (つくる)・消費 (つかう) レベルにおける世界全体の一人当たりの食品廃棄を半減させる」という目標が掲げられていることから、中学生のみんなも、生活する中で「つかう責任」を意識しながら、行動していくことが求められています。

「食べ残し≠ごみ」を減らすことは、ごみの処分にかかわる経済的負担を減らせるだけでなく、焼却することで発生する二酸化炭素 (温室効果ガス) も減らせるので、地球温暖化の防止にもつながります。この地球温暖化の問題についても、SDGs の目標 13 「気候変動に具体的な対策を」が掲げられるなど、SDGs の目標は、それぞれが互いに関係し合っていることから、食品ロスを減らす取り組みはいいことづくし！

まずは、「食べられる量をお皿に盛る」「苦手なものは食べられる人にゆずる」「買い物をする時は、陳列棚の手前から取る」など、ちょっとした工夫と行動で、食品ロスを減らしていきましょう。また、自分だけでなく、家族や友達などに食品ロス削減について呼びかけることで、今日より良い明日 (未来) へつなげましょう。今、私たちにできることを！



12 つくる責任
つかう責任



私たちに
何ができるかな？



町ホームページ

一緒にがんばろう！



©東京ハイジ/二宮町